

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

中学校 中学校 交流全体学習

板中生とT中生の交流全体学習① ～平行線で手をつなぐ語り合いの部落問題学習～

板野中学校で全体学習がスタートして10年目を迎えた1999年5月29日(土)、研究指定校として同和教育に取り組んでいたT中学校の全校生徒(以下:T中生)に私が担任する板野中3年A組(以下:板中生)が招かれ、T中学校の体育館で、T中生に部落問題学習を公開し、その公開授業を受けて、板中生とT中生が語り合いの部落問題学習(以下:全体授業)を実施した。

この全体授業の冒頭におけるT中生の発言は、板中生の語り合いを否定する発言が続くが、板中生はひたむきに自分の思いや願いを伝えていく。

部落問題学習の大切さと、必要性を訴え続ける板中生と、中学生には部落問題学習は必要ないという発言を繰り返すT中生との語り合いは、平行線であったが、段々と互いの意見を受け止めていく雰囲気生まれていき、両校の生徒の中に、段々と互いの仲間の意見を受け止めていこうとする雰囲気が芽ばえていく。それは平行線で手をつないでいく語り合いであった。

板中生にとって、このT中生との全体学習(公開授業と全体授業)は、とてつもなく大きなものを残している。なかなか意見がかみ合わない平行線の語り合いを決して諦めることなく、多様な思いを伝えていった板中生とT中生の語り合いの記録のすべてを紹介したい。

まず、全体授業の冒頭でのT中生の訴えである。

T・A(T中)の語り

「こんな勉強するより良い友だちをつくって差別を吹き飛ばせばスカッとする」

板野中学校の子はすごいと思うけど、俺から言わせてもらえれば、まだ14歳や15歳にしかならない自分たちが部落問題を考えても難しいし、はっきり言って「自分は差別をしない」と思っているだけでいいんじゃないかと思います。部落問題は年をとらないとわからないと思うし、たった14歳や15歳で悟っても大した結果にならないし、答えがでるわけでもないし、自分は差別をしないと思っていたら、なくなるまではいけないけど、差別は減っていくと思います。先生たちも14歳や15歳の時に部落問題を勉強したときは、部落問題についてわからなかっただろうし、実際今の先生の年にならなければわからなかったと思います。14歳や15歳はこんな勉強するより、もっと良い友だちをつくっていっぱい遊んで、そういう差別を吹き飛ばせるようにしたらスカッとすると思います。

H・B(T中)の語り

「わざわざこんなに集まって部落問題を勉強しなくてもいいと思う」

僕はわざわざこんなに集まって部落問題を勉強しなくてもいいと思います。その理由はちょっと部落問題の勉強して、自分で差別はせんようにしたらいいことだと思うからです。

K・C(T中)の語り「差別っていうのは、僕らの時はあんまり考えんでもいいと思う」

差別っていうのは、僕らの時はあんまり考えんでもいいと思います。子どもはこういう場があるから心配ないと思うけど、大人がしっかりやっていったらいいと思います。自分以下を求める心でテストの時、勉強をやっている人と、やっていない人がいて、やっている人がやっていない人にいうのは仕方ないと思うし、僕は運動があまり得意じゃなくて、運動のことに言われると、何も言えんから、そういうのは自分以下を求めているのではないと思います。

T・A(T中)の語り

「両方やらされたら、子どもは忙しくて頭を抱えて、いじめや人殺しをするようになる」

さっき言われた人がありましたけど、誰も部落問題や自分以下を求める心を勉強しなくていいというわけじゃなくて、教科の勉強とその道徳的なものを両方一生懸命頑張るということは、難しいと思うから、どちらかを優先しないといけないと思います。教科の勉強するなら勉強するで、道徳するなら道徳するで、どちらか一つにしぼった方がいいと思います。両方やらされたら、それこそ今の子どもは忙しくて頭を抱えて、いじめや人殺しをするようになると思います。大人は道徳の勉強を教えるなら、もっと教育を変えたらいいと思います。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ共同代表 森口 健司

